

平成31年度 青葉区予算原案について

素晴らしいまちの魅力を次の世代に確実に引き継ぎ、青葉区が将来にわたって「住みづけたい・住みたいまち」であり続けるために、5つの柱に沿った取組を進め、健やかな暮らしの安心感やまちの活力・魅力をさらに高めていきます。

区づくり推進市会議員会議資料
平成31年2月4日

1 誰もがいきいきと、健やかに暮らせるまち		
あおばこどもシステム及び地域包括ケアシステムの推進、健康増進に関する取組等を通じて、誰もが自分らしく健やかに暮らせるまちづくりを進めます。	予算額 24,376 千円	
主な事業・内容 「あおば健康スタイル」の推進	予算額 一部新規 5,047 千円	
「あおばに住んで、健康、長生き！」を実感できるよう、青葉区の特徴を活かした、区民が身近なところで気軽に実践できる健康づくりの取組『あおば健康スタイル』を展開します。		
「あおばこどもシステム」の推進		
子育てしやすいまちづくりの推進、発達段階に応じた育児支援ほか	予算額 一部新規 6,485 千円	
区・地域・関係団体等が連携して子どもの育ちを支える仕組みづくりを進めます。「あおばこどもシステムフォーラム」(仮称)の開催、転入者向け体験ツアー、子育て座談会、「子育てサポートブック」の発行等を実施します。		
障害児支援の推進	予算額 一部新規 411 千円	
「サポートファイル かけはし」を活用し、保護者と支援者、学校や関係機関等との連携を深めます。また、障害児とその保護者等を対象とした地域資源マップを作成します。		
青少年の育成支援	予算額 継続 384 千円	
「あおばこどもシステムフォーラム」(仮称)の参加者等のつながりを活かした、青少年の居場所づくりを推進します。		
「あおば地域包括ケアシステム」の推進	予算額 継続 2,007 千円	
地域包括ケアシステム構築に向けた青葉区版行動指針に掲げる「健康づくり・介護予防」「生活支援体制の整備」「医療・介護連携」「認知症」「シニアの社会参加」の5つの柱に沿った取組を進めます。		
障害者支援の推進	予算額 一部新規 930 千円	
障害者の社会参加を支援する取組として、ふれあいまつり、ふれあい農園を行うほか、精神保健福祉に関する普及啓発を行います。新たに自主製品販売事業の促進、重度心身障害児者に関する啓発に取り組みます。		
スポーツの振興	予算額 一部新規 3,200 千円	
区民・団体・企業との協働により、区民参加型のスポーツイベント「青葉区民マラソン大会」を開催します。また、ラグビーワールドカップの大会開催に向けた機運醸成を図ります。		
身近なスポーツの場の整備に向けた検討	予算額 新規 区局連携促進事業で計上	
横浜環状北西線高架下における身近なスポーツの場の整備に向けた検討を行います。		

2 安全で安心して暮らせるまち		
防災や防犯等に関する取組を通じて、リスクに備え、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。	予算額 27,801 千円	
主な事業・内容 防災のまちづくり	予算額 一部新規 7,561 千円	
浸水想定区域等の世帯を対象とした地域向け講座を新たに実施し、区民の自助・共助意識の向上を図るほか、地域防災拠点・災害対策本部機能の強化に向けた取組を進めます。また、定点診療拠点の整備、災害時のペット対策に引き続き取り組みます。		
緊急時情報システムの運用試行	予算額 継続 区局連携促進事業で計上	
電話を活用した災害時情報伝達システムの運用を行います。		
災害時非常用電源の確保	予算額 新規 溫暖化対策プラス事業で計上	
区災害対策本部の代替施設である学校施設に太陽光発電設備を設置し、VPP構築事業を活用した蓄電池の整備を進め、非常用電源を確保します。		
災害時要援護者の支援	予算額 継続 1,493 千円	
支えあいカードの広報普及を引き続き進めるとともに、福祉避難所や地域防災拠点における災害時要援護者の受け入れ訓練の実施及び支援を行います。		
地域における防犯活動の支援	予算額 拡充 2,136 千円	
区内で多発する振り込め詐欺などの犯罪被害を防止するため、警察や関係機関等と連携した防犯啓発、自主防犯活動支援の取組を充実します。		
鶴志田町の照明整備	予算額 新規 区局連携促進事業で計上	
鶴志田町歩行者遊歩道における照明灯を、LED防犯灯に更新します。		
居心地の良い区役所づくり	予算額 拡充 12,569 千円	
快適で居心地の良い区役所を目指し、区庁舎内照明のLED化や4階交流ラウンジの環境改善を進めるとともに、窓口の混雑対策、CS・ESの向上等に取り組みます。		

5 自然と調和した、多世代が住みやすいまち		
青葉区の特色である自然環境と街並みの調和や、花・緑の豊かさを生かしながら、少子・高齢化の進展と今後の人口減少等を踏まえた、持続可能なまちづくりを進めます。	予算額 21,583 千円	
主な事業・内容 田園都市線沿線まちづくり	予算額 継続 区局連携促進事業で計上	
民間事業者の力を活かし、駅ごとの特性を生かした機能を適切に誘導するとともに、駅周辺相互の機能分担・連携を図ることにより、区民の多様なニーズに対応するまちづくりを推進します。31年度は、地域住民等との意見交換を行いながら、各駅周辺のプランの見直しを行い、まちづくりプランを改定します。		
あおばコミュニティリビング	予算額 継続 SDGs未来都市推進事業で計上	
「次世代郊外まちづくり」で提案されている、コミュニティ・リビング・モデルについて、31年度は「青葉区まちづくり指針」において、生活支援拠点に位置づけているすき野地区をモデル地区として取組を進めます。		
市が尾駅周辺の案内サイン再整備	予算額 拡充 6,500 千円	
市が尾駅周辺地区バリアフリー基本構想に基づく、案内サインの再整備を行います。		
区民意識調査の実施	予算額 拡充 3,000 千円	
前回調査(28年度実施)より内容を拡充し、施策立案の基礎資料として区政運営に活かしていくため、区民意識調査を実施します。		
道路愛称の募集	予算額 新規 5,677 千円	
区制25周年にあわせて、自治会・町内会を通じて道路愛称名を募集し、区民の「ふるさと」への愛着が深まる機会を作ります。		
シェアリングエコノミーの推進	予算額 継続 250 千円	
民間企業等が所有する空きスペースを、インターネット上のマッチングサイトを介して、区民が有効利用できるよう「スペースシェア」の普及啓発等を進めます。		
地産地消の推進	予算額 継続 507 千円	
区庁舎での直売ブース「あおばマルシェ」の充実に加え、地産地消サポート店拡大に向けたPR等を通じ、地産地消の魅力を発信します。		
青葉エコなまちづくり	予算額 拡充 1,310 千円	
小学生等向けのエコ・スクール、ミツバチプロジェクト(ミツバチを通じた自然環境保全への意識喚起)などにより、区民に対し省エネ行動の普及・意識啓発を図ります。		
脱温暖化に対する区民啓発	予算額 拡充 溫暖化対策プラス事業で計上	
身近な自然環境への关心や脱温暖化の意識醸成につながる講演会を開催します。		
地域での美化活動推進	予算額 継続 1,696 千円	
美化推進重点地区(あざみ野駅周辺)での啓発活動を引き続き実施するほか、ごみネットボックスの設置など、地域の自主的な美化清掃活動への支援を行います。		

<参考>区制25周年関連 主な事業(案)

項目	内容
記念式典	区民まつりにおいて、25周年をお祝いする記念式典を実施します。
自治会町内会活動等紹介冊子	25周年を記念して、自治会・町内会の活動等を紹介する冊子の作成等を行います。
フォトコンテスト	青葉区の魅力など、25周年にちなんだテーマによる「フォトコンテスト」を実施します。
環境をテーマとした区民向け講演会	25周年を記念して、身近な自然環境への关心や脱温暖化の意識醸成につながる講演会を開催します。
道路愛称の募集	25周年にあわせて、自治会・町内会を通じて道路愛称名を募集し、区民の「ふるさと」への愛着が深まる機会を作ります。
フィリアホールコンサート	青葉区民文化センター(フィリアホール)において、25周年を記念して青葉区ゆかりの方々などによるコンサートを開催します。

その他、各種事業を通じて、区制25周年を区民の皆さんとともに祝います。

資料中、柱1~5の各項目に記載されている主な事業の予算額は、平成31年度 個性ある区づくり推進費 自主企画事業費で計上しているものです。

青葉みらいおこし	予算額 継続 2,500 千円
区民と行政との連携により地域課題の解決を図り、青葉区の魅力を高めます。地域の取組への事業費補助などを行います。	

あおば健康スタイル～あおばに住んで、健康、長生き！～

資料2

1 概要

青葉区では、区民の皆さまが「あおばに住んで、健康、長生き！」を実感できるよう、豊かな自然や美しい街並みなどの青葉区の特徴を活かし、身近なところで気軽に実践できる健康づくりの取組『あおば健康スタイル』を展開します。主に、「運動」「食生活」「健康チェック」の3つの視点を中心とし、健康増進の取組を推進していきます。

また、人と人との「つながり」を作ることが心身の健康に効果があることから、「つながり」作りを意識し、気軽に参加できる場や機会を提供する事業を推進していきます。

2 平成31年度の主な事業

【運動】

■ウォーキングマップの作成 <平成31年度拡充>

- ・保健活動推進員と連携し、現在配布している15地区ごとのイラストマップに加え、新たに2コースのマップを作成します。
- ・区内の主なウォーキングコース(44か所)の概要(位置・距離・歩数・高低差等)を一覧にした「青葉ウォーキングコースマップ」を活用し、ウォーキングの普及啓発を進めます。

【食生活】

■食育推進リーフレットの作成 <平成31年度新規>

- ・食に関する正しい情報を知り豊かな食生活を送るために、食生活等改善推進員と連携し、栄養バランスのとれた食事や減塩、野菜の摂取量についての知識、おすすめのレシピを紹介したリーフレットを作成します。

【健康チェック】

■特定健診・がん検診の啓発 <平成31年度拡充>

- ・区民に特定健診・がん検診の受診を働きかけるため、「健康づくり・介護予防連絡会」と連携し、効果的なパンフレットや啓発グッズを作成して、地域行事など様々な機会を活用した啓発を進めます。
- ・引き続き区医師会・区歯科医師会・区薬剤師会と連携しながら、国民健康保険加入者に受診を働きかけます。

■歯科保健の推進・オーラルフレイル予防の普及 <平成31年度拡充>

- ・口の機能の衰えが心身の衰えにも大きく関わっていることから、オーラルフレイル予防について普及啓発を図るため、区歯科医師会と連携し、新たに講演会を開催します。
- ・引き続き区歯科医師会と連携しながら、口腔ケアや歯周病予防の普及啓発を進めます。

～「あおば健康スタイル」を広く発信～

■あおば健康スタイルブックの作成 <平成31年度新規>

- ・特定健診やオーラルフレイル予防など重点的に周知すべきトピックスや、運動や食生活など生活習慣改善のための取組、気軽に参加できる場や機会等を紹介し、区民に健康づくりやつながり作りの実践を働きかけるパンフレットを作成し、「あおば健康スタイル」を広くPRしていきます。

区づくり推進市会議員会議資料
平成31年2月4日

青葉区の魅力（特徴）

◆公園が多い
～公園の数が市内第1位

◆街路樹が多い
～街路樹（歩道並木）の数が市内第1位

◆犬の登録頭数が多い
～登録頭数が市内第1位

◆運動している人が多い
～30分以上の運動を週1回以上している人が約6割（平成28年度区民意調査より）

◆活動への参加意欲が高い
～スポーツや趣味の会への参加者割合が市内第1位（平成28年度健康とくらしの調査より）

◆食事に気を付けている人が多い
～野菜たっぷり、塩分控えめを心がけている人が6割以上（平成28年度区民意調査より）

◆農業が盛ん
～農家戸数が市内第2位、経営耕地総面積が市内第5位

◆魅力的な飲食店が多い
～青葉ブランド登録数47店舗、よこはま健康応援団登録数が市内第1位

◆医療機関が多い
～病院・一般診療所数が市内第2位

◆たばこを吸っている人が少ない
～喫煙習慣のある区民は約1割

主な事業

【運動】

- ・ウォーキングマップの作成
- ・ウォーキングイベントの開催（保健活動推進員や桐蔭横浜大学との連携）
- ・ロコモ予防の推進（ハマトレの普及・転倒防止体操の普及）
- ・元気づくりステーションの実施
- ・園庭開放、あおぞらお出かけパーク、どにち★ひろば等の実施
- ・ワンコインプログラム（スポーツセンター）、青葉マラソン等の実施

【食生活】

- ・食育推進リーフレットの作成
- ・食生活等改善推進員と連携した啓発（講習会、朝食パンフレットの配布）
- ・健康応援弁当のPR
- ・よこはま健康応援団登録店舗との連携
- ・地産地消の取組との連携（地産地消レシピ集の作成等）

【健康チェック】

- ・特定健診・がん検診の普及啓発
- ・オーラルフレイル予防の普及啓発
- ・糖尿病の重症化予防
- ・たばこ対策の推進
- ・認知症フォーラム、介護予防講演会

・あおば健康スタイルブックの作成

ソーシャルパワーの発揮～あなたの力の1%をあおばの未来に！

青葉区では、将来にわたり魅力的なまちであり続けるため、平成29年度から「あなたの力の1%をあおばの未来に！」を合言葉に、区民の皆さまが豊富な経験や知識を生かしつつ、自ら輝きながら、地域で一步踏み出していくための取組を進めています。

平成31年度は、それぞれの取組を深化させながら推進します。また、新たに力を発揮し始める人同士のネットワーク化や地域とのつながりづくりに、より一層取り組んでいきます。

平成30年度

市ヶ尾ユースプロジェクト
地域で活躍する大人と中高生がともに地域の課題解決に取り組む活動の実施
【次世代育成】

あおばdeスタートセミナー
好きなこと、得意なことを生かして、地域での活動の始め方の基礎を学ぶセミナーの実施
【地域デビュー】

セカンドキャリア
地域起業セミナー
経験や知識を生かしたソーシャルビジネス起業支援セミナーの実施
【社会的起業】

フラワーダイアログあおば
キックオフイベントや花と緑の事例研究、ワークショップなど活動のきっかけづくりとなるプログラムの実施
【花と緑の風土づくり】

区民活動の支援
区民活動支援センター等の区民利用施設で、人・団体・活動をつなぐコーディネート機能を強化
【コーディネート機能の強化】



平成31年度

3年目にあたる31年度は、青少年育成の充実を図るために、地域の課題解決や魅力をアピールするグループ活動を継続しつつ、その後の中高生の地域体験活動の定着化と伴走するシニア人材の組織化の具体的な検討を進めます。

地域での活動の始め方の基礎を学ぶ連続セミナーを開催し、多彩な人材が新たなことにチャレンジして、地域で活躍できるよう支援を行います。受講者のニーズに応じた講義や現場見学会等を引き続き実施する予定です。

【新規】（事業名：地域における起業等支援事業）
新たに力を発揮したい人に加え、既に起業等を準備中の人の継続的支援や地域でのネットワークづくりにつながるよう、民間事業者との協働により、起業セミナーや交流会の実施のほか相談の場を設け、地域における起業等を支援します。

市民団体との協働により、花と緑に関する講座や講演会など、区民参加型プログラムを実施します。各プログラムでの対話を通じて、参加者同士の接点づくりを行い、既存団体ともネットワークし、地域の賑わいづくりや多世代交流を図ります。

区内の市民活動や生涯学習を支援するため、区民活動支援センターにおいて相談・コーディネートや情報提供を行うとともに、活動団体交流会等を実施します。また、施設間連携の取組やアドバイザーによる指導・助言等により、コーディネート機能を強化します。

クロージングイベント

30年度の取組発表、ネットワークづくり

クロージングイベント

31年度の取組発表、ネットワークづくり

『青葉区防災の街づくり事業』

太陽光発電設備の設置と VPP 構築事業の活用について

1 事業概要

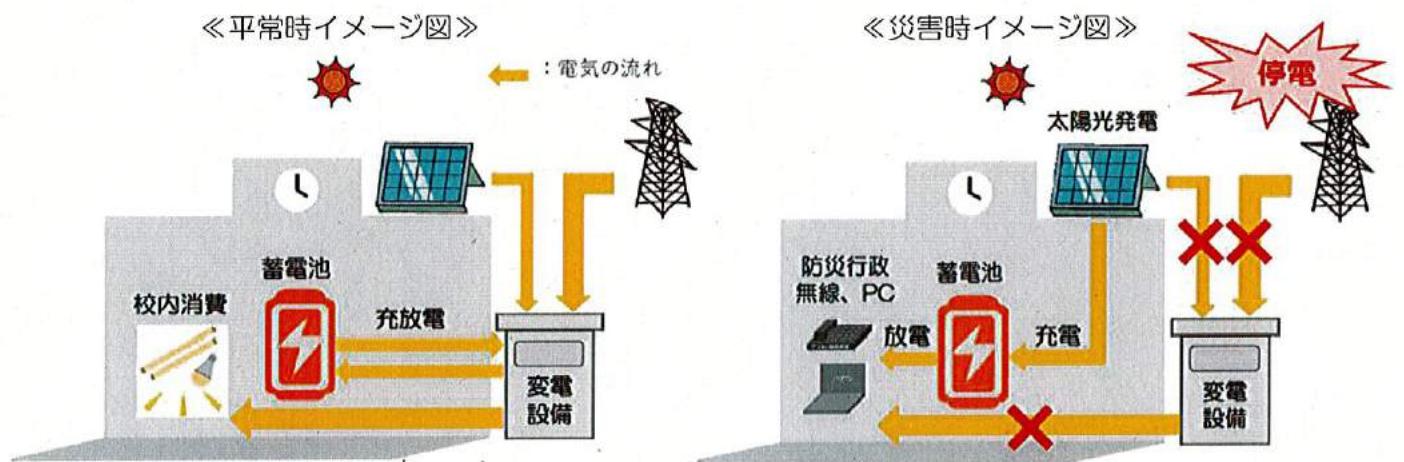
大規模災害時に備え、青葉区災害対策本部の代替施設である市ヶ尾中学校に太陽光発電設備を設置します。また、平成 32 年度（2020 年）以降に、VPP 構築事業を活用した蓄電池の整備を進めることで、非常用電源を確保します。

2 横浜型 VPP 構築事業

(1) 概要

電力会社が保有・管理する蓄電池を設置し、平常時は、電力ピーク時間等の需要量を調整することで、電力供給の安定化に活用するものです。

災害時は、蓄電池を非常用電源として活用します。また、太陽光発電と連系することにより、停電時にも充電することが可能となります。



(2) 災害時の蓄電池の用途

防災行政無線や作業用パソコンの電源としての活用を考えています。最大 15kWh^{*}までの蓄電が可能です。

^{*}※平均的な一般家庭電力使用量の 1.5 日分

3 今後の予定

平成 31 年度(2019 年) 太陽光発電設備設置

平成 32 年度(2020 年) VPP 構築事業を活用した蓄電池の設置に向けた調整

《参考》青葉区内設置状況

平成 28 年度 奈良の丘小学校

平成 29 年度 谷本中学校